

## 「専門資料論のイントロダクション」

### ◆ 司書資格科目における「資料論科目」の位置づけの違い

- 図書館資料論（必修科目）：図書館資料全般の特質を論じ、その出版と流通、選択、選書ツール、保存管理について解説する。新しいメディアの特質やその利用についても触れる。
- 専門資料論（必修科目）：人文科学，社会科学，自然科学，技術の各分野における知識の構造と資料との関係についての理解を図るために、それぞれの分野の特性とその分野を代表する資料について解説する。
- 資料特論（選択科目）：郷土資料，行政資料，視聴覚資料などの各種資料の特質を論じ、その生産と流通，評価，選択・収集，利用等について解説する。

↓

- ★図書館資料論＝図書館資料全般に関する「総論」。「モノ」としての図書館資料に着目。  
専門資料論＝図書館資料のうち、「人文科学，社会科学，自然科学，技術」といった専門分野の資料（専門資料）を扱う科目。図書館資料の「内容」に着目。

### \* (1) \_\_\_\_\_ が専門資料の中心。（詳しくは次回以降に）

- 人文科学，社会科学，自然科学，技術の各分野における (2) \_\_\_\_\_ をまとめる。
- (3) \_\_\_\_\_ = 専門家による審査が課されるのが，最大の特色。：(3)を経て，定期的に発行される(4) \_\_\_\_\_ に，様々な(1)が掲載される。
- 研究者は複数の(1)を作成した後，それらを(5) \_\_\_\_\_ にまとめることが多い（特に「文系」＝人文科学，社会科学では）。

### ※ もっとも，この授業では「研究」に収まらない「専門資料」も考えてみたい。

例：医学研究の成果としての論文と，「闘病記」との関係

「闘病記ライブラリー」 <http://toubyoki.info/>

### \* 学術論文・学術図書を探すための手がかり：「資料」にかかわる下の区分をよく理解すること。

- (6) \_\_\_\_\_ : 学術論文・学術図書など，独自の内容をもつもの。
- (7) \_\_\_\_\_ : (6)の「書誌データ」を加工・編集してつくられた資料で，(6)を探すための情報源。
- (8) \_\_\_\_\_ : (7)を探すための情報源。『日本の参考図書』など。

◆ この授業での具体的な目標

- ・ 専門資料が生み出される過程として、研究の実情を理解する。
- ・ 専門資料を扱う図書館（特に大学図書館）の役割を理解する。
- ・ 専門資料，特に二次資料の具体例を理解し，講義履修者自身の今後の学習（レポートや卒論作成に向けて）にも役立てる。

◆ 補足：図書館への就職について（特に，専門資料論の内容が大きく関わるもの）

\* 国立大学等の図書館への就職採用試験

正式名称は(9)\_\_\_\_\_。そのうち，図書館への就職は「事務系（図書）」の区分となる。司書資格は不要。地域ごと（北海道，東北，関東甲信越，東海・北陸，近畿，中国・四国，九州）に試験を実施する。一次試験は教養試験，二次試験は図書館情報学関連の専門試験と面接。毎年 4 月に受験申込を行う。下記サイト参照。

- ・ 国立大学協会での試験案内：<http://www.kokudaikyo.gr.jp/saiyou.html>
- ・ 関東甲信越地区の試験情報（過去問含む）：[http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/tosho\\_shiken/](http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/tosho_shiken/)  
（「図書館情報学関連の専門試験」の内容は全国共通。）

（※私立大学についてはそれぞれ独自の方法で採用しているので，後で述べる「その他，重要な情報源」を参照。特に最近では「派遣社員」としての採用が多いので注意。）

\* 国立国会図書館

試験種類としては一種（試験内容は大学卒業程度），二種（同じ），三種（高卒程度）に分かれる（一種のほうが難しい）。いずれも司書資格は不要。一次試験は教養試験，二次試験は専門試験（「図書館情報学」以外にも多数の科目あり。1 科目選択）・外国語試験・性格検査・面接，三次試験は面接。過去問の一部は上記ウェブサイトに掲載。毎年 4 月に受験申込を行う。国立国会図書館サイトの下記「職員採用情報」を参照。

<http://www.ndl.go.jp/jp/information/employ.html>

\* その他，重要な情報源

- ・ 「われわれの館」 <http://www5b.biglobe.ne.jp/~wir/>  
図書館への就職に関する情報，過去問などが随時掲載される。
- ・ 「図書館関係求人情報」（日本図書館協会） <http://www.jla.or.jp/job.htm>  
ここにも図書館への就職に関する情報が掲載される。

- ・ 「就職対策のページ」(大阪・大手前大学 吉田暁史教授作成)

<http://www4.plala.or.jp/yosida/otemae/shushoku/>

近畿地区の図書館への就職に関する情報が中心だが、「就職情報リンク集」は地区を問わず有益。

- ・ 『図書館員への招待』三訂版, 塩見昇[編著], 教育史料出版会, 2004.

図書館の就職をめぐる現状や過去問などを収録。就職希望者はまず一読のこと。

- ・ 『図書館職員採用試験問題集・解説:「旧・国家公務員 2 種図書館学」に学ぶ』日本図書館協会, 2006.

先に述べた「国立大学法人等職員採用試験」は, 2003 年まで「国家公務員 II 種図書館学」として行われた。本書はその当時の試験問題や解説を収録しているが, 現行の「国立大学法人等職員採用試験」への対策としてなお有効。

#### ◆ 主要参考文献 (講義全体に関して)

[教科書としての性格をもつもの]

- ・ 『専門資料論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 8) 三浦逸雄・野末俊比古[共編著], 日本図書館協会, 2005.
- ・ 『新訂 専門資料論』(新 現代図書館学講座 9) 中森強[編著], 東京書籍, 2004.
- ・ 『改訂 専門資料論』(新・図書館学シリーズ 8) 戸田光昭[編], 樹村房, 2002.

[情報源についての具体的解説]

- ・ 『文献調査法—調査・レポート・論文作成必携』毛利和弘[著], 日本図書館協会, 2006.  
上に述べた「二次資料」「三次資料」の具体例を数多く解説している。

[その他]

- ・ 『図書館に訊け!』井上真琴[著], 筑摩書房 (ちくま新書), 2004.

専門資料論に限らず, 司書資格科目にかかわる内容が凝縮されているので, 一読を強く勧める。

- ・ 『変わりゆく大学図書館』逸村裕・竹内比呂也[編], 勁草書房, 2005.
- ・ 『知っておきたい大学図書館の仕事:現場に即した業務ガイドブック』大学図書館の仕事制作委員会[編], エルアイユー, 2006.

日本国内の大学図書館の現状をまとめる。大学図書館への就職を考えている人にとっては必読。講義中でもこの本の内容に触れる予定。